

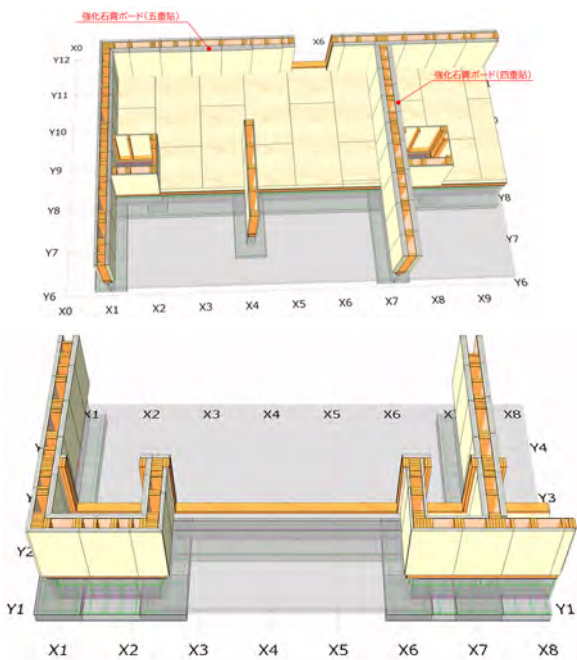
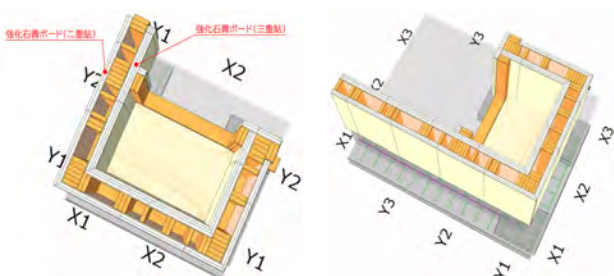
次期バージョンアップでXF24が10階建てに対応 ネットイーグル(株)



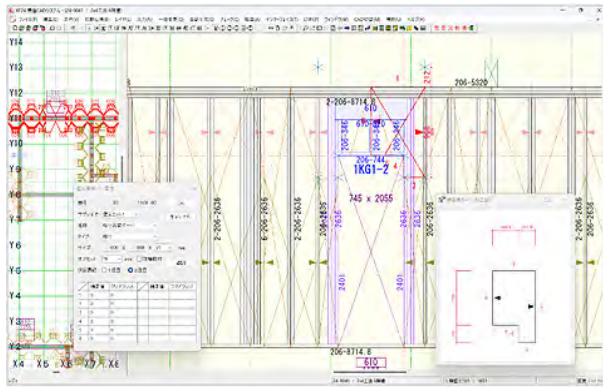
2024年度の新設住宅着工戸数が80万戸を切るという衝撃的な予測を複数のシンクタンクが発表するなど、木造住宅市場の縮小は年々顕著になっている。その一方で、官民の双方で非住宅建築における木質化の加速がより顕著になってきており、非住宅分野の市場は拡大を続けている。これらに加え、ついに今年には建築基準法の改正や来年のBIM確認申請に向けたデジタルデータによる確認申請が開始されるなど、木造建築業界は大きなターニングポイントを迎えることとなる。

こうした木造建築業界の動向を鑑み、木造プレカットCAD/CAMシステム大手のネットイーグル(株) (福岡県福岡市、祖父江久好社長) では、同社がリリースする全てのCADソフトにおいて、法改正対策の『構造計算(許容応力度計算)システム』、(新)壁量・柱の小径基

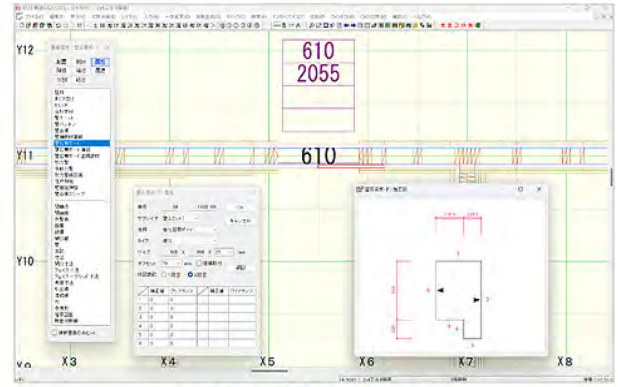
準に対応した『壁量・偏心率・N値計算/性能評価計算システム』、BIM確認申請(IFC)対策(BIM-CAD双方向連動)の『IFCデータ読込/出力システム』など、技術革新によって設計やプレカットの合理化を図り、木造建築業界を支えてきた。今現在は高層化が進む非住宅木造建築への対応に向けた機能拡張が開発中となっており、今年の5月に予定されているCADソフトの次期バージョンアップでリリー



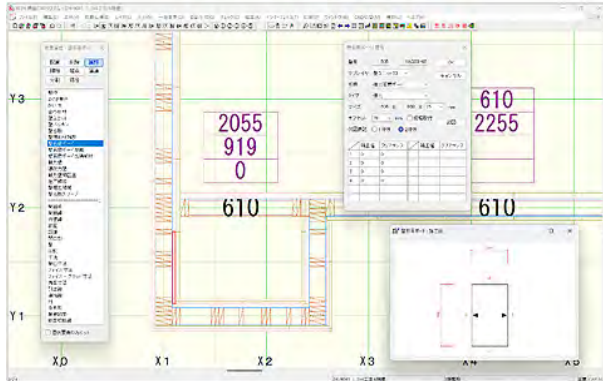
強化石膏ボードの二重～五重貼り



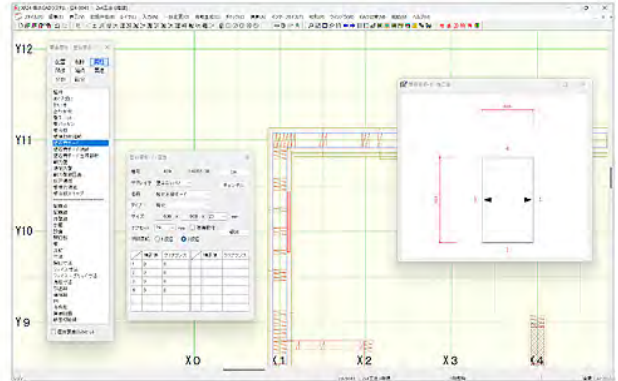
石膏ボード断面図入力画面（開口部）



石膏ボード伏図入力画面（開口部）



石膏ボード伏図入力画面（全壁部）



石膏ボード伏図入力画面（全壁部）

スされる予定となっている。

非住宅木造の高層化に対応

2021年に改正／施行された「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」の追い風により、近年では大手ゼネコンが手がける商業施設やオフィスビルなどで木造建築物の高層化が加速傾向にある。こうした動向を受け、同社では非住宅プレカットCAD「XF15」の10階建て対応を2023年のバージョンアップで実装させているが、2025年のバージョンアップでは2×4プレカットCAD「XF24」においても10階建て対応が実装される。

2×4工法では木材と合板を組み合わせるパネルを作り、床・壁・天井を一体化した六面体構造により躯体を形成するため、建築規模の差はあれど、一般の木造住宅も非住宅木造も同一の設計手法となっている。同社のXF24は構造計算→構造設計（伏図／壁柱図）→木材

積算（木拾い／板取）→3次元加工→シーリング（釘打ち）まで行うことができる。そのため、一般の木造住宅と比べて手間と精度が求められる非住宅木造の積算作業を効率化できるほか、点数の多い部材の加工をCAD/CAMプレカットで行うことができる。

また、XF24のパネルシステムを拡張させた機能である「石膏ボードオプション」を用いることで、石膏ボードの表面紙方向変更や板取を行うことができ、石膏ボードの内貼り／外貼り、二重～五重貼りなどを入力することができる。この機能によって、非住宅木造で必須となる高い耐火性能（耐火／準耐火）の確保に必要な大量の石膏ボードを現場での手切りに頼らず、CAD/CAMプレカットで加工することも可能となる。

同社では、今回のバージョンアップにおいてXF24の機能アップはもちろん、これと連動する構造計算システム「NSC24」の計算機能の向上も図り、2025年の法改正への対応を強化していくこととしている。